

新しい中学校づくりに向けた事前アンケート調査(対象:教職員)結果

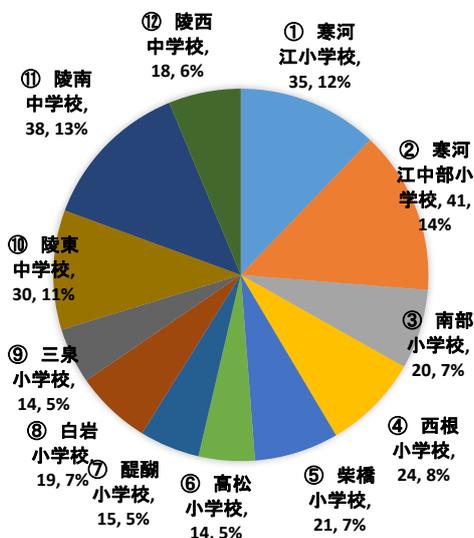
令和6年11月1日現在

対象者数:419名 回答者数:289名 回答率:69.0%

アンケート実施期間:令和6年10月10日~10月25日

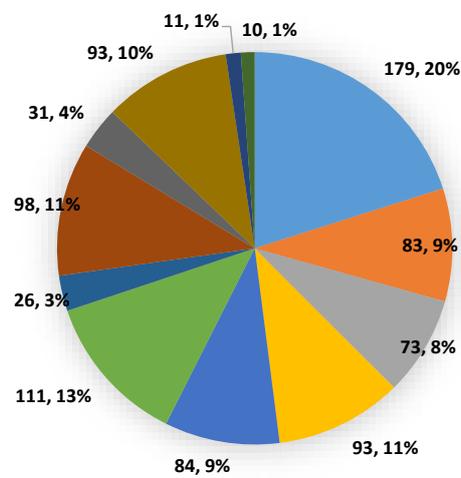
設問1:あなたの勤務校を教えてください。

	回答数	割合
① 寒河江小学校	35	12%
② 寒河江中部小学校	41	14%
③ 南部小学校	20	7%
④ 西根小学校	24	8%
⑤ 柴橋小学校	21	7%
⑥ 高松小学校	14	5%
⑦ 醍醐小学校	15	5%
⑧ 白岩小学校	19	7%
⑨ 三泉小学校	14	5%
⑩ 陵東中学校	30	10%
⑪ 陵南中学校	38	13%
⑫ 陵西中学校	18	6%



設問2:令和12年に寒河江市に新しい中学校が開校します。(※事務局注:現在は令和11年開校予定)
以下の施設は、新しい学校施設において、すべて大事なものだと考えています。あなたが、特に必要である、またはあると望ましいと思われる施設について、下記より選んでください。(3つまで)

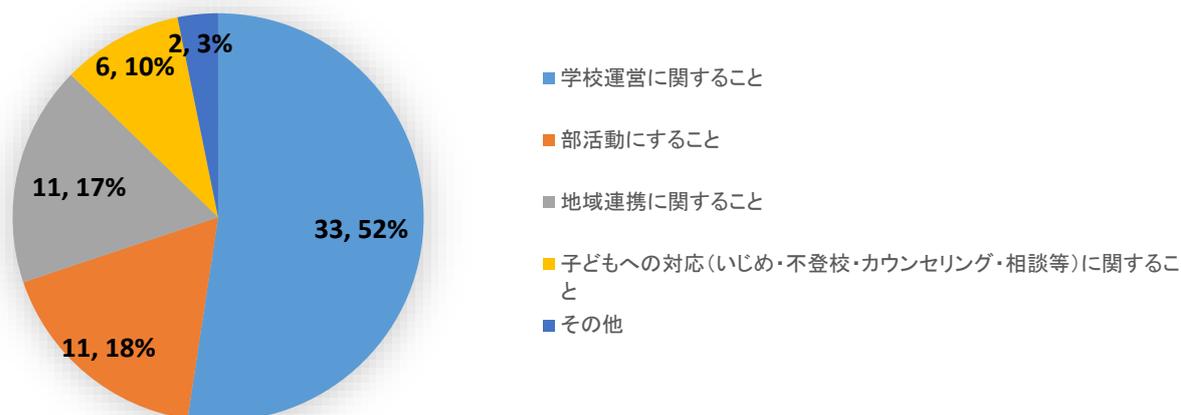
	回答数	割合
①多様な学習活動を展開できる学習空間。(高速大容量ネットワーク、LED照明、ロッカー等移動可能な家具)	179	20%
②様々な教科等の教室の有機的な連携・分担による多様な活動の展開。(施設全体が学びの場、教室と連続する空間)	83	9%
③読書・学習・情報センターとなる学校図書館の整備。(どの教室からも利用しやすい図書館の配置)	73	8%
④設備や家具の工夫による多様な学習活動の展開・教室環境の充実。(固定式可動式プロジェクタ、大型スクリーン、移動が容易な椅子・机)	93	10%
⑤学校における働き方改革を推進し、パフォーマンスを最大化するための執務空間。(グループでの打ち合わせ共同作業等を行うスペース、移動が容易な椅子・机、休憩ができるスペース)	84	9%
⑥多様な教育的ニーズのある児童生徒への対応。(リラックススペース、広い保健室)	111	12%
⑦快適で温かみのあるリビング空間。(木材を活用した温かみのある空間、壁面の工夫やベンチ等の配置、リラックススペース)	26	3%
⑧健やかで衛生的な環境の整備。(室内の空調設備、トイレの洋式化、非接触水道栓)	98	11%
⑨学校と地域が支え合い協働していくための共創空間。(地域の交流スペース、ゾーニング、体育館、音楽室等)	31	3%
⑩安全・安心の確保。避難所としての防災機能の強化。(防犯設備、防犯カメラ、バリアフリー化、多目的トイレ、水害対策、備蓄倉庫)	93	10%
⑪脱炭素社会の実現を目指した学校施設整備。(省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入)	11	1%
⑫木材利用の促進。(地域材の活用)	10	1%



設問3:新しい中学校づくり（ソフト面）に関するご意見・ご要望をご記入ください。（学校運営、地域連携、部活動など）

有効回答数（n=63）

学校運営に関すること	33
部活動にすること	11
地域連携に関すること	11
子どもへの対応（いじめ・不登校・カウンセリング・相談等）に関すること	6
その他	2



設問3についてのおもな意見

いろいろな支援が必要な生徒に対応できるように、先生方の共通理解を図って欲しい。
いろんな勤務形態の先生方がいるが、学校内で共通理解を図れる時間を持って欲しい。

常駐のスクールカウンセラーの配置。
不登校やその家庭と専門に関わる支援員の配置。
特別支援専科教員の配置（各学年に）。

一時的とはいえ、1000人規模の学校となるわけで、しかも校則や風紀、生徒の価値観が異なる3校が一緒になるということは、大変大きな混乱を招きます。今のうちから少しずつ互いの学校の交流を進めていく必要があると思います。

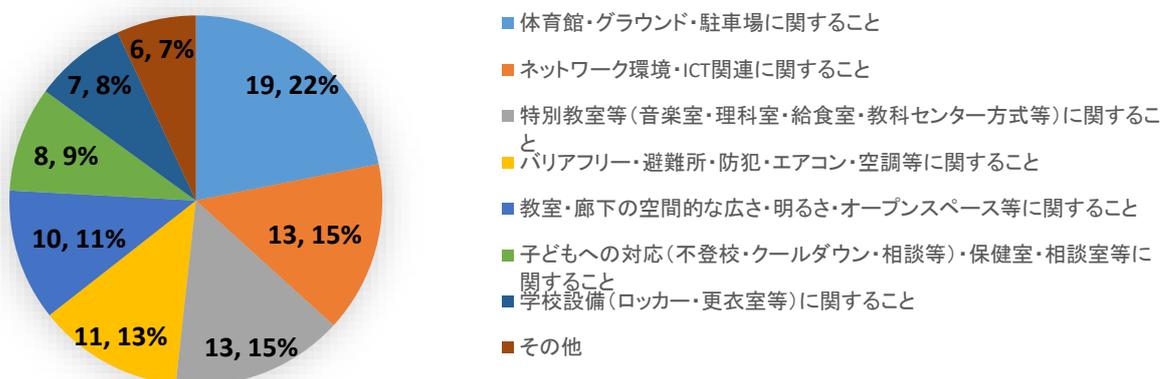
多様な生徒（特別支援、不適合など）の増加に伴い、教育支援員を増やしより個別指導がいき届くようにして欲しい。今後、様々な保護者への対応が求められることが考えられると思うので、スクールロイヤーも必要かと思っています。

3校が集まるので、年間計画の精選などが重要だと思う。今のうちから学校間の交流をしていく必要があると思う。

設問4:新しい中学校の新校舎建設（ハード面）に関するご意見・ご要望をご記入ください。（教科の専門の視点も含めて。各教室の配置、教室の広さ、グラウンドの配置、外構の工夫、必要な部屋、必要な備品など）

有効回答数（n=87）

体育館・グラウンド・駐車場に関すること	19
ネットワーク環境・ICT等に関すること	13
特別教室等（音楽室・理科室・給食室・教科センター方式等）に関すること	13
バリアフリー・避難所・防犯・エアコン・空調等に関すること	11
教室・廊下の空間的な広さ・明るさ・オープンスペース等に関すること	10
子どもへの対応（不登校・クールダウン・相談等）・保健室・相談室等に関すること	8
学校設備（ロッカー・更衣室等）に関すること	7
その他	6



設問4についてのおもな意見

保健室は職員玄関（職員室）近くの方が良いと思います（お迎え、遅刻の対応等）。会議、来客が重なった際も対応可能なフリーの部屋。人数が多い会議にも対応可能なスペース（なるべく1階に。何かあった場合の対応のため）。

カバンやファイルなど生徒の荷物を置く場所が十分なこと。生徒指導や教育相談のできる小部屋が複数あること。学年ごとのフロアに1つ自由に使える教室があること。

中学校は一周400m、直線120mが8レーンあると授業も学校行事もやりやすい。

各クラス電子黒板の配置。職員室、ひとり一台インターネットがつながり、メールアドレスがある。タブレットとパソコンでデータやりとりできる。ICT環境が整い、仕事が効率的にできる環境にしてもらいたいです。

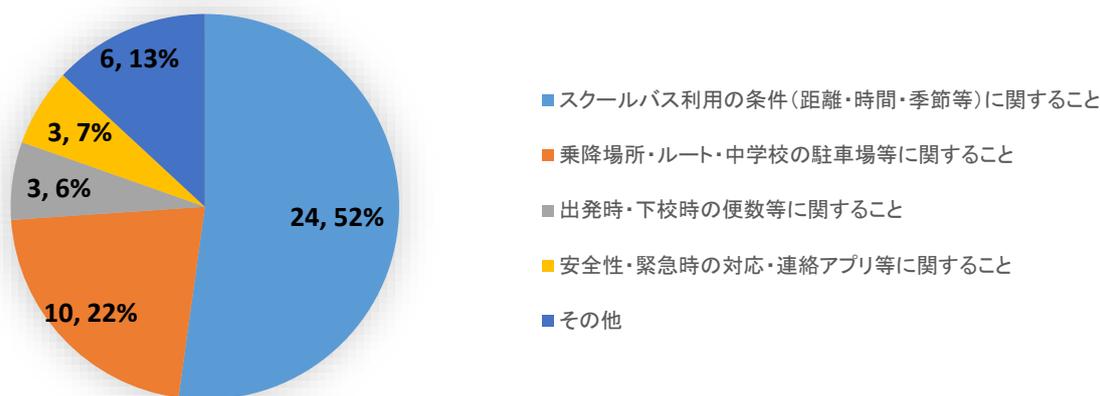
大きい机 大きいロッカー。冬は太陽光がふんだんに入り暖房費が節約できるづくり。夏は遮熱でき明るさもキープできるカーテン。相談できたり不登校生徒対策のための小さい部屋多数。

オープンスペースを取り入れるのは良いと思いますが、仕切りのある教室や防音も大切にしてほしいです。よその学級の様子が見えたり聞こえたりすると、生徒の集中力が下がりますし、授業する側もやりづらくなります。

設問5：新しい中学校においては、スクールバスの運用について検討をしています。スクールバスについて（適切な運用距離、移動時間の目安、乗降場所の安全性、時期による運用など）のご意見・ご要望をご記入ください。

有効回答数（n=46）

スクールバス利用の条件（距離・時間・季節等）に関すること	24
乗降場所・ルート・中学校の駐車場等に関すること	10
出発時・下校時の便数等に関すること	3
安全性・緊急時の対応・連絡アプリ等に関すること	3
その他	6



設問5についてのおもな意見

東西南北の4路線は必要かと思います。夏季は4km以遠の生徒を対象とし、冬季は2km以遠としてはどうでしょうか。乗降場所は公共施設の駐車場などその地区の生徒が安全に集まれる場所でそこに集まるように指導するというところでどうでしょうか。

スクールバスは、4km以上。冬季は3km以上。朝の運行は1便、夕方は2便。
スクールバスに読み取り機を設置し、乗降の管理はICカードで行う。自転車は全員可能。

スクールバスを使用している中学校数校に勤務しましたが、やはりスクールバスを登下校に使用する生徒は、融通が効かず色々大変そうだった。突然の変更が可能とか、複数の時間帯で運行するような融通がきくと色々ありがたいと思う。ただ、それは大変なのでなるべく本数（コース）を減らせるよう、自分で通える生徒が多い場所を選定しないといけないと思う。

学校内でバス利用の生徒全員が乗降するとなると、場所の確保や安全が確保しづらいのではないのでしょうか。また体力づくりの意味でも路線バスのバス停をうまく利用し、ある程度歩く距離をもっていいのではないかと思います。中学生なのでどこまで通学手段を把握するかだと思いますが、学校が下校を管理するのはとても困難だと想像します。

安全面を最優先にし、乗り降り場所・運行コース・冬期と夏期の気候変化等々の状況を想定し運営、運行の実施を検討願いたい。

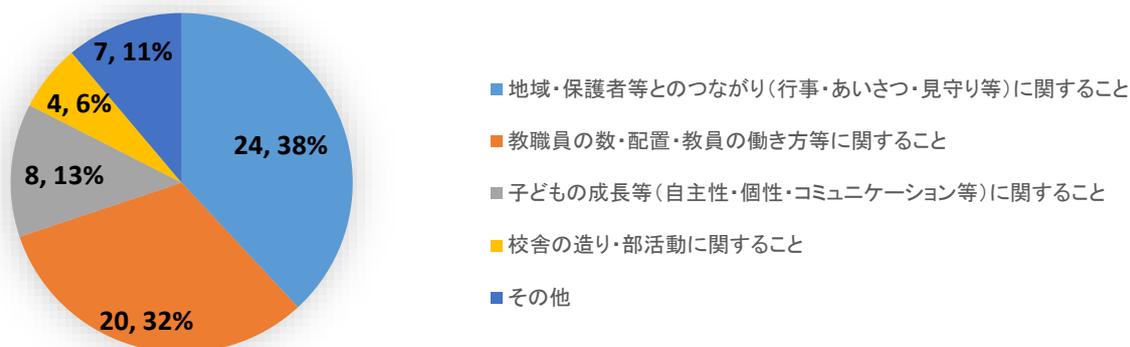
登下校だけでなく、部活動やクラブ活動時の他校、周辺施設への移動・送迎にも対応可能にしてほしい。合同チーム化や地域移行が進められているなかで、「集まる」ことがネックになっている。

通学方法は、徒歩・自転車・スクールバスの3つになるということでしょうか。基本的には通学時間が全員20分～30分以内におさまるべきで、特別に遠くからの通学には途中停車のない便を用意するなどの配慮が必要です。シミュレーションは、パソコン・スマホ等の行き方検索で可能なので、手配可能なスクールバスの台数など、実態把握をした後、計画を立案する必要があります。

設問6:生徒に活気があり、働きやすく、地域からも信頼されるような、魅力ある中学校にするには、どんな工夫があるといいですか。ご意見をご記入ください。

有効回答数 (n=63)

地域・保護者等とのつながり（行事・あいさつ・見守り等）に関すること	24
教職員の数・配置・教員の働き方等に関すること	20
子どもの成長（自主性・個性・コミュニケーション等）に関すること	8
校舎の造り・部活動等に関すること	4
その他	7



設問6についてのおもな意見

地域全体で中学生を育てる意識を持つこと、中学校に多様な人材と人的余裕があることが大切だと考えます。豊富な人材が揃う学校は働きやすく、様々なアイデアも生まれるので、先生たちのパフォーマンスが上がると思います。それは生徒たちにも還元され、先生も生徒も生き生きと過ごせるのではないのでしょうか。その姿が、地域からも信頼される姿に繋がると思います。

自由参観のように地域の方に解放したり、情報をおたより等で発信したりが必要かと思えます。きっと市民はみんな一度は中に入りたいと思うのではないのでしょうか。それが生徒がいきいきと授業している時間であれば、なおさら安心感につながると思います。

先生方に余裕のある年間計画にして生徒と向き合いやすくする。そして、地域をなるべく巻き込んだ総合的な学習を展開していくといいのではないのでしょうか。

大規模校ほどグラウンドや体育館の運動施設へのアクセスをよくして活動がスムーズに行えるようにしたい。職員室から全教室を感じられるつくりでみんなで見守る雰囲気をつくる。地域の信頼を「子どもが主語」になっている児童生徒の姿で得られるよう、学校教育目標や教育課程を設定したい。

教職員の余裕がなく疲弊していると活気もなくなってしまうため、担任業務軽減や、SCの充実、クレーム対応、別室対応職員などがほしい。

生徒の声が響き、めあてに向かって日々主体的に努力をしている中学校、またそういう校風が感じられる中学校であって欲しいです。現在、地域からとか働き方改革の視点からとかいろいろ言われます。しかし、中学校は、あくまでも生徒の学びの場です。そして、生徒が生き生きと他と関わり合う声がたくさん響くことが望ましいです。それにはまず、先生が生き生きと生徒と関わることが大切です。

果たして1,000人規模の学校でそのような学校が成り立つのか、そこからが疑問。もちろん、少人数過ぎるのも色々問題はありますが、人数が多ければ多いほど、生徒にはストレスがかかり問題が発生し、それによって地域から信頼が得られるかどうか。そこが心配されます。